

じょうきょうじ

浄敬寺だより



発行日 平成二十六年八月十三日 第二十三号

【法語】

弥陀にたのめる人は、
南無阿弥陀仏に身をば
まるめたることなり

蓮如上人御一代記聞書 一〇一

【意識・解説】

弥陀を信じておまかせする人は、
南無阿弥陀仏にその身を包まれているのである。

「弥陀を信じておまかせする」ということは、何か困った事が起きたから頼ってみるとか、自らの意志や力で信じようとするとするなどということではありません。自らの意志より先に、私たちを既に包み込んでいる南無阿弥陀仏のはたらきがあるのです。それに気付くと、ますます目には見えない仏のはたらきを有難く思わずにはいられません。

2014年前半写真展



↑ お堂コンサート(8/4)



↑ 夏の法話会～佐野明弘師～(6/29) ↑



夏休み子ども会(8/3)



← 報恩講お引上げ →

☆巻頭法話『雑感』☆

この四月から、三条教区第十組組長を仰せつかることとなりました。ところで、皆様はこれをどの様に読まれるでしょうか。恐らく（だいじゅつくみ くみちよう）となるのではないでしょうか。恐ろしい団体の長のようにみえますが、正解は（だいじゅつそ そちよう）です。柏崎、西山、刈羽、そして小国の真宗大谷派寺院凡そ三十四力寺が真宗大谷派三条教区の十組（じゅつそ）というように区分けされておりまして、その代表責任者が組長（そちよう）になります。市役所を退職しましてから三年間副組長（ふくそちよう）を務めてまいりましたが、これから三年間は組長としての職責を担うこととなります。市役所に勤めている間は、こういった役職は御容赦願っていたこともあり、致し方ないとは思いますが、就任約五ヶ月、様々な会議や催しに翻弄されている毎日で、先が思いやられま

す。
人間というもの、というより自分自身のことかも知れませんが、立場が変わると考え方や言う事が変わってくるのだなとつくづく感じます。特にこういう立場に立つと、他の人達の姿勢が気になります。どうして協力してくれないのか、どうしてももっと積極的にやってくれないのか、そんな愚痴にも似た思いに日々苛まれます。しかし、自分が違う立場だった時はどうだった

だろうか、今後また立場が変わればどうなるのだろうか、そう思うと今自分がこうあるべきだと思っていること自体が案外自分勝手な思い込みなのかも知れません。人間は個々に別の人格を持っているし、考え方も違うということを基本にしないと、心が休まらない日々を抱え込むことになりそうです。

そんな繁忙の日々の中ではありませんでしたが、久々に浄敬寺お堂コンサートを開催しました。このような催し物は、何人来ていただけるのか予想が難しく、もしあまり来ていただけなかったらどうしよう、大勢来過ぎ入りきれなかったらどうしよう、などいつも通り悶々と悩んでおりましたが、お蔭様で沢山の皆さんにおいでいただき、盛会裏に終えることができました。風も無く、暑い夜になってしまったため、どちらかというと環境面で御迷惑をおかけしてしまったようですし、入りきれないという心配も若干当たってしまったようですが、沢山の人たちに同時に楽しさや安らぎを与えることが出来るというのは音楽の大きな力です。寺は聞法の間であり、寺を聞法を通して人間として生まれた意義と喜びを見い出していく場としていくことは勿論ですが、時には別のアプローチで寺に足を運んでいただくことも大切だと思っています。そこから仏縁が生まれることがあれば、とも願っています。三条教区第十組の場においても、親鸞聖人の教えを共にいただく仲間として、目指すべき目標は一つではあ

りますが、そこへのアプローチは柔軟に考えながら、三年間進んで行きたいと思っている今日この頃です。御協力、よろしくお願い申し上げます。 合掌

（住 職）



本堂のお荘厳 しょうごん

写真右 ↓ 報恩講お引上げの五具足 ほうおんこう ひきあげ ごぐそく

報恩講で花瓶×2・鶴亀の灯明×2・香炉の五つの仏具をお飾りすることを五具足といひます。

写真左 ↓ 盆参会 ぼんさんえ

毎年、美しい百合の花を頂戴し、飾らせていただいています。

☆住職からのお知らせ

境内整地工事をさせていただきます。

・境内正門から入って右側にあります山を整地させていただきます。笹藪の荒れた



山になっており、近隣の方々にも御迷惑をおかけしておりますが、今回整地して、お檀家様のための駐車場といたします。工事は秋彼岸後になるかと思いますが、若干ご不便をおかけすることもあるかと存じます。御了解ください。

・工事は、皆様からお納めいただいている毎年の浄敬寺維持費からの支出になります。舗装等付帯工事もありますので、経費は数年にわたっての精算とさせていただきます。

☆庫裡便り （坊 守）

◎ご報告

四月八日に前坊守三回忌法要を親戚・家族で勤めました。

◎『無言館』へ

今年（六月二十九日）の仏教文化講演会の講師は「無言館」館主の窪島誠一郎さんでした。主催者代表挨拶という責務もあつた住職に誘われ、長野県上田市にある「無言館」を訪ねてきました。そこは沢山の戦没画学生の絵が展示されている美術館です。戦争によって奪われた夢や人生、画学生達の無念さ、戦争のむごさを思わずにはおれませんでした。六十年経つたその絵の前に立つと、画学生の青春や精一杯生きていた証も感ずることができました。「あなたは今を大切に生きていますか」そんなメッセージが伝わってくるようでした。是非皆さんと一緒にもう一度訪ねたい美術館でした。

◎おさそい

三月十五日の同朋会報恩講、四月二十七日の長岡市立劇場でのお待ち受け同朋大会仏教讃歌に御門徒の方と参加しました。仏様の教えが歌詞になった讃歌と一緒に歌いませんか。練習用CDもありますので声をかけてください。

◎ご覧ください

本山出版部から「お彼岸」の冊子が発行されていますが、今回、准坊守（晴香）の文章が掲載されています。寺の本棚にありますのでご覧ください。



☆二〇一四年前半を振り返って

◎春彼岸（お中日三月二十一日）法話 住職

寒さがやつと一段落した春彼岸のお中日でした。念仏をいただくという事は、いずれの行も及び難いわが身を救おうという仏の働きをいただくことです。迷いの世界に沈んでいる私たちが、お念仏の教えを聴聞することによって、この世界が迷いの世界だということを知られ、愚かな我が身に自らの頭が下がっていく中で、初めて真実の世界、浄土の世界が開かれてくるのです。

◎報恩講お引上げ（五月十九日）絵解き法話 今泉温資師

報恩講には親鸞聖人の御一代記の御絵伝（全四幅）を内陣余間に荘厳しています。今年は、御絵伝の二幅目に描かれた内容について解説しながらご法話いただきました。勤行は、市内法中寺院の御寺院方に御参勤いただき、御参詣の皆様と共に力強く正信偈を唱和しました。おときには、例年通り槇原地区の皆様からお勝手のお手伝いをいただきスムーズに準備ができました。

◎夏の法話会（六月二十九日）法話 佐野明弘 師

私たち現代人は様々な問題を抱えています。地球温暖化、環境汚染、エネルギー問題など、考えるといくらでも出てきます。そもそも、なんでそんな世界になってしまったのか。それは、私たちが自分の想いだけ生きており、そのため本当の生き方を見失っているからです。本当の生き方が分からない、ではどう生きたらいいのか。その問いの中にこそ、本当の願いがあるのだと先生は言われます。

「大悲無倦常照我」と言った源信僧都もまた、本当の生き方について大変、悩まれたそうです。そんな本当の生き方を見失った人間を悲しみの存在として見出し、光明、大悲をもって我々を常

に照らしだす。それが阿弥陀如来であり、その御名、南無阿弥陀仏と念仏を称えることこそが救いなのです。源信僧都もお念仏に生きた人であるとお話しくださいました。（当院 記）

◎盆参会（七月十四・十五日）法話 住職・当院

十四日は住職から、「お盆というご縁を通して、亡き方を仏として訪ねる道を歩んでいるか確認してみたい。我が身が一番見えな

いのが自分自身だが、仏法を通しての始めて自分の姿を見ることができる。そのためにこそ、仏様の声を聞く聴聞の生活が大切である。」との法話がありました。

十五日は当院の法話でした。『歎異抄』に「善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや。」という有名な言葉がありますが、この「悪人」について、如来が救おうとする悪人とは一体誰か、どのような人を表すのか、との内容でした。悪人とは、「何が正しいのか分からない、道を見失ったもの」「凡夫」のことです。

◎夏の子ども会（八月三日）

子ども・大人・スタッフ・寺族、合わせると百人を超える大人数の子ども会でした。子どもたちが一生懸命に勤行をする姿、笑顔いっぱい境内で遊ぶ姿が印象的でした。

境内に大きなブルーシートを敷いての夕食は楽しく美味しく、午後一時から集まっておにぎりを握り、焼きそばを調理してくださいました。また、仕事先から駆けつけてお手伝いをしてくださった子ども会卒業生の方、途中で汚れてしまったトイレをお掃除してくださった付き添いの方もいらっしやいました。御門徒の皆様を支えられ、今年も無事に開催できたことを大変有難く思っています。

ミニコンサートには、東京音大出身のお兄さん・お姉さんから、バイオリン・ビオラ・ピアノの共演で、ディズニーメドレーを披露していただきました。今話題の『アナと雪の女王』の曲では子どもたちが大合唱に。素晴らしい演奏に感激し、子ども達の元気な歌声が微笑ましく思えた、心温まるひとときでした。

◎お堂コンサート（八月四日）

子ども会に演奏してくださるようになって早いもので八年目。大人だってゆつくり聴きたい！と、大人向けのコンサートを企画しました。柏崎日報に掲載していただいたこともあり、当日は本堂に入りきれないほどの方々からお集まりいただきました。「愛のあいさつ」や「カノン」など馴染みの深いクラシックの名曲から「精霊流し」など、ジャンルも幅広く聞かせていただきました。御門徒の方から頂戴した感想を紹介します。

浄敬寺でお堂コンサートが催されました。厳かなお堂にはお子様連れの方からご年配の方まで大勢の皆さまが参集しました。演奏者の方が演奏前に曲や作曲家の紹介を丁寧にしてくださったことで日頃触れ合う機会が少ないクラシックの音楽もゆつたりと耳を傾け聞き入りました。またよく耳にする親しみのある曲はそつと口ずさむ方の姿もありました。夏の熱帯夜も数台の扇風機と演奏者の奏でる曲と真摯な姿が心地良い清涼感となりました。今回演奏をしてくださった方々は前日開催された浄敬寺毎年恒例の「夏休み子どもの集い」でも子ども向けのコンサートを担当しておられました。今大人気の「アナと雪の女王」が演奏されると、幼稚園児・小学生のお子さんたちが大合唱となり大盛況となりました。生演奏の力は素晴らしいと感じた一夜でした。

（浄敬寺門徒 ㄥ・H様）

☆― 仏教名言集 第十六回 ―

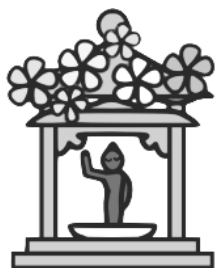
『徳』

魅力があり人を集めるような人を「あの人は人徳がある」と表現します。仏教で「徳」とは、何かを成し遂げてくれそうとか、何か可能性を秘めているといった意味があります。人徳と言った場合は、何か人の為に成し遂げてくれそうという可能性、期待を感じる人を指します。人が人を呼び寄せる時、私たちはその人物に、何かをやってくれそうだという期待を感じているのです。

お釈迦様は仏徳を備えてお生まれになったと伝わっています。仏徳とは世を超えて人々を導いてくれるのでは？と言う大いなる可能性、期待のことです。お釈迦様は生まれて直ぐに七歩、歩いたと言われています。生まれて直ぐに歩ける子どもがいるとは思いますが、お釈迦様の誕生に立会った人はきっと、お釈迦様に直ぐにでも歩いて導いてくれるという力強さを感じたのではないのでしょうか。

また仏教では功德という言葉もよく使われます。功德の功とは優れた働き、または立派なもの、と言う意味があります。親鸞聖人は功德とは南無阿弥陀仏、お念仏のことであると言われています。

（当院）



☆第二十一回 晴香の『真宗門徒のマメ知識』

ちょっぴり
解説!

今回のテーマは『年中行事に参詣しよう!』です。

浄敬寺では、年間を通じて様々な仏事や催し物があります。その中でも、代々受け継がれてきた年中行事は、法話・勤行(読経)・おときがあり、ぜひ多くの方から仏さまの教えに遇っていただきたい機会です。「どうやって伺えばよいでしょう?」との質問がありましたので、お答えします!

☆持ち物や服装は?

服装は基本的に平服で構いません。年中行事の中で、最も重要な法要は報恩講ですので、報恩講には少し改まった服装でというのが、昔ながらのお伝えです。持ち物は、お念珠・勤行本・肩衣(お持ちの方)
かたぎぬ



☆当日の流れは?

まずは本堂にて御本尊へお参りの後

これらをお持ちください

① 受付へ

庫裡に受付があり、浄敬寺世話人の吉田さんから記帳を担当していただいております。包みもの(『お明かし』『志』『御仏前』)の他、秋の彼岸には経常費もこちらでお受けいたします。



法話の直前は受付が混み合います。のし袋にはフルネームを、裏には額面を記入いただくと助かります。

受付後は
お茶をどうぞ。

② 法話

* 報恩講お引上げ・・・十時から一時間程
* その他年中行事・・・十時半から四十五分程
報恩講にはお馴染みの今泉先生から、お彼岸や盆参会、しまい講には住職または当院から法話があります。仏教のこと、お念仏の教え、親鸞聖人のお話などを、できるだけ解りやすく皆さんにお伝えしたいと思っています。



③ 勤行

行事により内容は異なりますが、毎回最後には、赤い勤行集(赤本)での同朋唱和をいたします。同朋唱和とは、参詣の方全員でのお勤めという意味です。寺にも赤本の用意はございますが、お持ちの方は、ご持参いただければ幸いです。勤行の途中に、香炉を回しますので、順次お焼香をお願いします。



④ おとき

勤行後、坊守の気合いが入った手作りのおときをどうぞ。『おとき』とは、漢字で『御齊』。一斉の齊の字を書きます。つまり、その日の仏事にあわれた方全員で一緒にいただくのが『おとき』です。単なる腹ごしらえではなく、いのちをいただく食事でもあります。教えに出会う仏事なのです。



報恩講・盆参会
のおときと
台所スタッフ
の方々



☆さいごに

念仏相続のため、真宗門徒が大切に受け継いできた年中行事を、浄敬寺でも大切にしていきたいと願っています。事前申し込み等は不要ですので、お子さんやお孫さんも一緒にお気軽にお越しください。

☆二〇一四年後半の行事予定

八月十三日～十六日 孟蘭盆会（お盆）

*十三日・・・午前六時より 本堂にてお朝事

九月十三日（土） 正信偈をよむ会 午前九時より

九月二十八日（日） 「音市場」会場

九月二十～二十六日 秋彼岸

*お中日 二十三日（秋分の日）

午前十時半～法話勤行後おとき

十月十一日（土） 正信偈をよむ会 午前九時より

十一月一日（土） 正信偈をよむ会 午前九時より

*三条別院報恩講の為、第一週目に変更致します

十一月五～八日 三条別院報恩講

期間中、十組団参があります。ぜひご参加ください。

十一月十七～十八日（月・火） 有縁講 赤倉ホテルへ

十一月三十日（日） しまい講

*午前十時半より法話・勤行・おとき

十二月十四日（日） 年末法話会 講師 田澤一明師

（新潟市明誓寺住職）

7

二〇一五年

一月一日 修正会勤行 朝六時より

一月一～二日 年始参

*真宗門徒の一年は、御本尊のお参りから始めましょう

☆諸連絡

◎ご支援をお願いします

昨年夏の浄敬寺便りでもお知らせいたしましたが、福島県二本松市に、子ども達を内部被ばくから守るため安全な食材を提供しようと「青空市場」を開催されている寺院があります。市場での収入は、子ども達の保養の旅費に充てられるそうです。放射線量の心配のない土地で過ごすことにより、免疫力が回復したり、子どもたちが安心して外遊びができたりというメリットがあるのだそうです。

野菜・お米・缶詰・インスタント食品などの保存食、洗剤などの日用品をご支援いただける方は、よろしくお願い致します。

個人でご支援してくださる方は・・・

真宗大谷派 真行寺 『青空市場』 宛

〒九六四・〇九〇二 福島県二本松市竹田一・一九二
Tel 0243・22・0739

毎月十日、二十日の市場に合わせお送りください。

（八月は保養中のためお休みです）

夏休み子ども会

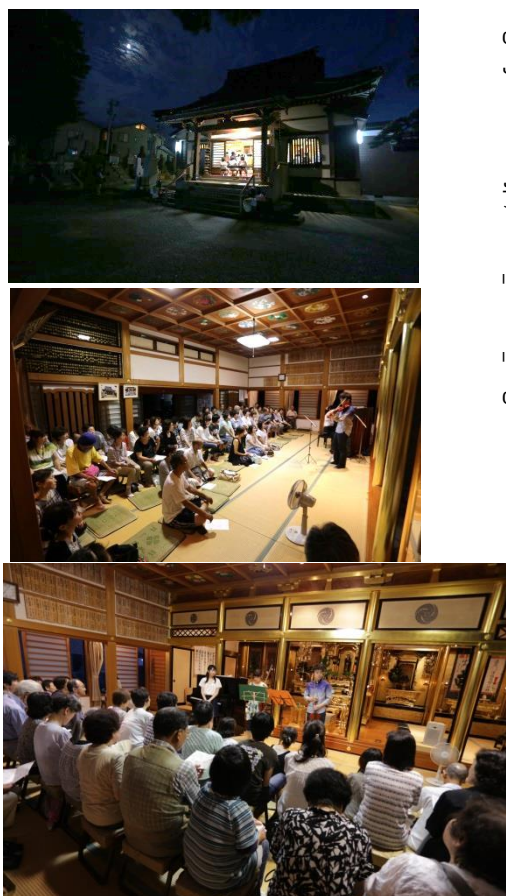


来年も
遊びに来てね！

8

お堂コンサート

(中村進四郎様撮影)



『真宗大谷派浄敬寺 小僧☆はるかの気まぐれ日記』
http://blogs.yahoo.co.jp/haru_0310_naga

☆ブログ

当院 minipapa@kismet.or.jp

住職 tom814@kismet.or.jp

晴香 haru310@kismet.or.jp

☆メールアドレス

子どもを三人連れて歩いていると、思わぬ場所で見ず知らずの方から親切にしてもらったことがあります。大抵のことは自分で解決出来ると思って生きてきたせい、新鮮な感覚を味わいますが、思い返してみれば、家族の助けは勿論ながら、沢山の方々からご協力いただいて、ひとつひとつの行事を終えることができています。この浄敬寺便りの編集もその一つ。日常にも感謝すべき事柄は溢れているのです。日によって喜んだり悩んだりしていますが、全く仏様の掌の孫悟空と同じだな...と思う今日この頃です。「私たちが時々迷うのではなく、人間の人生全体が迷いの中にある」という夏の法話会での言葉に、妙に納得できた私です。

(晴香)

☆編集を終えて...